

水と土の芸術祭 2015

「東アジア文化都市 2015 新潟市」のメイン事業として、「水と土」をテーマに 3 回目となる芸術祭を開催しました。

「潟」をメインフィールドに、市民プロジェクト、こどもプロジェクト、アートプロジェクト、シンポジウム、食・おもてなしの 5 つのプロジェクトを展開しました。

水と土の芸術祭は、「私たちはどこから来て、どこへ行くのか～」を基本理念とし、2009 年、2012 年そして 2015 年と 3 回目の開催となりました。

新潟市は、日本を代表する二大河川である信濃川と阿賀野川の河口を有する古くからの港町。かつては川の氾濫などにより広大な低湿地帯でしたが、先人たちの努力で乾田化に成功。やがて日本一の米どころとなった、まさに「水と土」が出会い、共存してきた地域です。この芸術祭は、水と土により形成された独自の風土や文化に光をあて、人間と自然との関わりかたを見つめ直し、未来を展望していくヒントとなるものを探る芸術祭。また、アートを媒介にし、先人たちが築きあげてきた水と土の文化などを国内外に発信します。さらに次代を担う子どもたちにそれらを伝えていくために開催するものです。

開催日	2015/7/18(土)～10/12(月・祝)
会場	4 つの潟(鳥屋野潟、福島潟、佐潟、上堰潟)及び市内各所
来場者数	775,268 人
主催	水と土の芸術祭 2015 実行委員会
共催	「東アジア文化都市 2015 新潟市」実行委員会



王文志 (ワン・ウエンチー)
「新潟の夢 -Dream of Niigata-」

撮影：中村 脩

アートプロジェクト

深い地域性と高い芸術性を持ち、新潟の水と土の象徴である「潟」に光を当てながら、アートプロジェクトを実施しました。アーティストは、地域に入り、徹底した考察からその場所でしか表現できない作品を創作。潟とアートの出会いが作りあげる新しい風景を体感する機会となりました。



福島潟



安藤 栄作「大地のひと」

撮影：中村 脩



鳥屋野潟



大矢 りか「田舟で漕ぎ出す。」

撮影：中村 脩



佐潟



関根 哲男「原生一立つ土」

撮影：中村 脩



上堰潟



藤野 高志／生物建築舎「曲」

撮影：中村 脩

中国・韓国作家の参加



肖潇 (シャオ・シャオ) 「An Object from the Mountain」

撮影：中村 脩

「東アジア文化都市 2015 新潟市」のメイン事業として、中国、韓国の作家を招へいしアート作品を展示したほか、ワークショップや座談会など市民との交流事業を実施し、文化交流を積極的に図りました。



管懐賓 (ガン・ファイビン) 「心園の渡り (2009)」

撮影：中村 脩



管懐賓ワークショップ

撮影：中村 脩



イ・スギョン 「Translated Vases」

撮影：中村 脩



イ・スギョントーク (写真 左)

撮影：中村 脩

市民プロジェクト、広域連携の取り組み

市民プロジェクト

市民自らが企画・運営する、伝統芸能・アート制作・パフォーマンス・広報など、まちづくりや地域活性化につながる109もの多彩な取り組みが市内全域で行われ、市民・地域がかかわりを持つ参加性の高い芸術祭となりました。

また、市民プロジェクトの一部は、「東アジア文化都市 2015 新潟市」フレンドシップ事業にも位置づけ、新潟市の特色である「市民力」を発揮して事業の盛り上げを図りました。



撮影：中村 脩



撮影：中村 脩

広域連携

芸術祭開催期間中に佐渡市で行われる「アース・セレブレーション」及び新潟市の「にいがた総おどり祭」と連携し、特典付与及び相互広報する広域連携を行いました。

また、大地の芸術祭実行委員会、佐渡市及び山形県鶴岡市と連携し、韓国の旅行会社・メディアを招へいして、アートや食などを楽しむ観光ルートを提案し、旅行商品の造成につなげました。



広域連携プロジェクトウェブ・TOP ページ

食・おもてなし



「瀧るカフェ」とアート作品 金野 千恵「timber messenger 一山から海へ旅するカフェ」 撮影：中村 脩

「いただきます」をコンセプトに、新潟市の貴重な文化でもある「食」とアートがコラボレーション。福島瀧・鳥屋野瀧・佐瀧・上堰瀧を巡り、地元食材を使った食事が楽しめる「瀧るカフェ」を展開するとともに、食の交流会で出会いの機会を創出しました。また、カフェ自体も、移動するたびに新たな形に生まれ変わるアート作品で設えられました。このほか、地域住民による体験乗船や地場野菜販売、史跡・自然ガイドなど、来場者の満足度を高める「おもてなし」を行いました。



食の交流会（鳥屋野瀧）



撮影：中村 脩



地域のおもてなし「瀧マルシェ」



地域のおもてなし「地場野菜販売」